

写

受理番号	陳情第6号
受理年月日	令和6年5月21日

陳 情 書

令和6年5月21日

果樹公園に計画している新庁舎建設について町民が納得する検証を求める陳情

二宮町議会議長
根岸ゆき子様

陳情者 二宮町二宮 1931-3

まちづくり工房「しお風」代表 神保智子



【陳情趣旨】

新庁舎建設については、紆余曲折の末、現在ラディアン周辺行政機能等集約事業としてラディアン・図書館のリニューアルやにのみやホテル跡地活用も含めた基本設計が進められています。

「しお風」は、二宮町新庁舎建設について議会に対して陳情を行い、町にも要望書を提出し、内容が認められたと思います。その内容は、①新庁舎整備についての意見の検証結果公表と具体的な説明、②将来を見通した町の持続可能な未来像とその財政への影響、特に新庁舎建設が与える住民への具体的な影響の公表と説明、③町が考える新庁舎を拠点とした発災時の町全体の防災体制とそのための日頃からの地域防災との連携体制についての説明です。

しかし、その後数年の町の動きを見ていますと、その内容が叶えられていません。

町は、新庁舎建設費に充当する資金はあるので、財政的に大丈夫である、町民サービスに影響はないと言っていますが、本当にそうでしょうか？その根拠は具体的な数値で示されることはされていません。町民サービスの低下や町民負担が増えていることはないでしょうか？

また、令和元年度には新庁舎建設費上限 20 億円を目指していますが、令和5年度 12月議会で今後必要となる投資的経費を 64 億 5 千万円くらいと答弁しています。別添資料のように財政力指数も低く、経常収支比率からいっても多額な投資的な経費は見込めません。将来負担比率を減じたというのに、国の財政制度等審議会でも節度ある財政運営、有事に備えた財政上の余力の確保が建議される中で、生産人口が激減する将来に向けてここでまたツケを回すのでしょうか？

新庁舎が防災拠点となると公表していますが、実際新庁舎建設により各地区の住民の安全性、被災時の救援が著しく向上するのか、わかりません。町民は、まだ新庁舎に避難できる、十分な救援物資が保管されると考えている人が多いと思います。どのような機能が果たされるのでしょうか、具体的な流れ、役割分担を明らかにし、町民が行動しやすく、安心できる仕組みが欲しいです。

今回建設場所が果樹公園に変更されたが、果樹公園は憩いの場所であり、駅周辺にある緑地、二宮町にあって歴史的な意義や果樹栽培、園芸にあって中枢的な役割を果たした全国に誇れ、将来を担う子どもたちに誇りを持ってもらえる場所。二宮町の今後の収入源と考えられる観光資源にもなる場所です。

基本設計が進められたことで、より詳しく、具体的に町が説明できると思いますので、議会に町民が納得する詳しい具体的な検証を求める陳情を行います。将来に禍根を残さず、次世代へ自信をもって継承できる審議をお願いするものです。

【陳情項目】

- 将来を見通した町の持続可能な未来像とその財政への影響、特に根拠となる数値データなども含む新庁舎建設が与える住民への具体的な影響
- 町が考える新庁舎を拠点とした発災時の町全体の防災体制とそのための日頃からの地域防災との連携体制、特に一住民の立場からの流れ
- 将来を担う子どもたちへの郷土教育への重要資源、観光資源の損失への影響と対応

以上